

平成 27 年 7 月 6 日

倉敷市長

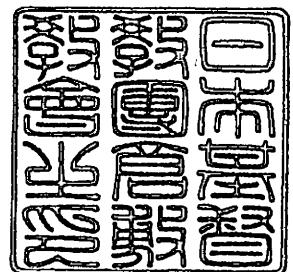
伊東 香織様

住所 岡山県倉敷市鶴形 1 丁目 5-15

学校法人 竹中学園 竹中幼稚園 理事長 佐伯 元



宗教法人 日本基督教団倉敷教会 代表役員 中井 大介



竹中幼稚園の教育事業に関する陳情

1. 陳情の趣旨

竹中幼稚園は倉敷の歴史を大切にし、文化財である日本基督教団倉敷教会会堂における保育を続けて参りました。しかし、南側に隣接する倉敷市鶴形 1 丁目 679 番地の新規開発により、これまでの歴史的景観と、倉敷教会の文化財としての価値、幼稚園の機能が変動いたします。今後、まちづくりにおいて倉敷らしい固有の歴史と文化と教育が大事にされるように考えていただきたいと思います。

2. 陳情の理由

竹中幼稚園は倉敷市で二番目に古い幼稚園です。これまでに倉敷市の皆様によるご理解と励ましを頂きながら 93 年目の春を迎えてます。

当幼稚園及び倉敷教会の位置する倉敷市鶴形は西日本を代表する医療機関群、警察署や裁判所、郵便局、銀行をはじめとする公的機関が集中する地域です。女性の社会進出が強く反映される職場が多く存在しています。私共は、それらの職場に勤めながら子育てに励む多様な家庭への必要に応えたいと願い、保育のための教育事業を継続して参りました。この事業をさらに拡充するために、幼稚園敷地の拡大は悲願となっています。

私共の敷地南側に隣接する土地「倉敷市鶴形 1 丁目 679 番地（以下、「南側土地」）」につきましては、平成 27 年 2 月 6 日に岡山西農業協同組合くらしき東支店によって売却されることとなりました。私共も取得を目指して入札に参加いたしましたが落札できませんでした。

このたび私共の南側土地が開発されるに当たり、新たな土地所有者である穴吹興産株式会社に、現存建物の解体前と新規建物の開発前に協議していただきたいと申し込んでいます。穴吹興産株式会社は、西日本最大のマンション開発事業者です。私共、地元の教育事業者と協議することは、相互利益になるばかりではなく、倉敷のまちづくりの為に共に良い部分で貢献できると考えています。

さて、私共の幼稚園は大正 12 年に献堂された倉敷教会会堂を保育施設としています。この会堂は国の登録文化財となっています。竹中幼稚園はこの会堂と共にあり、大正時代からの景色と環境を維持して参りました。文化財の中で育つこどもは、倉敷の歴史を生きることが日常となり、倉敷を愛する者に育ちます。文化財と過ごす生活は現代において古くても色あせぬ価値あるものを学ぶ経験となります。この学舎で生活したこどもは生涯、ここでの生活に誇りを持ち続けます。文化財という変わらない背景を共有した関係者は世代を超えて増えています。

こどもは環境を選べない存在です。こどもが育つ環境は意識して作られなくてはなりません。私共の教育事業は、こどもに社会的資源と豊かな教育環境を用意することが使命です。こどもを育む若い世帯への援助も幅広い意味での教育事業です。これらは現在の利益ではなく未来の資産をより一層豊かにするた

めの投資事業と捉えることもできます。

子育てしやすい環境が整備され、若い世帯が生活したいという願いを実現するまちづくりは、ひとを呼び込むための有効な施策です。その選択肢のうち、マンションが中心市街地に多く提供されることも悪いことではありません。それと同時に、私共も、ここでしか提供できない「歴史と文化に根ざした」教育環境を長年にわたり維持しており、今も創り続けております。

私共の南側土地は商業地域に設定されており、容積率 400% の高密度建物の建設が推奨されています。法律的には幼稚園の南側全面に 40m を超える高層建物が無条件で建設できます。開発の際には重機の往来と振動と埃によって子どもの安全や教育環境が著しく損なわれます。また、開発後にも高層建物による日照阻害と風害が想定されます。築 93 年目を迎える倉敷教会の建物については、石積みの近代建築であり、専門家の診断によれば、極めて振動に弱く、不同沈下による建物被害が懸念されています。保障協定の有無にかかわらず、大正時代の近代建築物の維持に不安を抱えることとなります。

去る平成 27 年 2 月末日までに私共が主催した署名活動の趣旨は「倉敷の人達は子どもがお日様のもとでのびのび育まれることを望み、農協跡地の取得者が、私たち竹中幼稚園ではなかったとしても、子育てるなら倉敷は安心だと全ての方が思える事業を行っていただきたいという希望を土地購入者と倉敷市に伝えるため（『署名活動の趣旨』より）」のものであり、19,613 筆の支持を得ることとなりました。これは倉敷の皆様による、私共の事業理念への賛意表明だけではなく、いずれは社会参加することとなる子どもたちのために安心できる教育環境を維持して頂きたいという願いの表明でもあります。

少子高齢化社会を迎えた現在、日本創成会議による人口問題検討分科会の報告として「地方から大都市圏への人口移動が現在のペースで持続すると仮定した場合 2040 年には全国の約 1,800 市区町村のうち約半数の市区町村で若年女性（20 歳～39 歳）人口が 5 割以上減少する」という試算が発表されました。若年女性人口は「倉敷市においても 28.1% 減少する」と推計されております（『広報くらしき』2015 年 5 月 No.580 より）。

人口減少対策と地方創成の施策として中心市街地におけるマンション建設は、まちにひとの流入を期待できる事業です。まちにひとが流入してくれば、子どもが生まれ、さらにひとが増えます。ただし、この倉敷だからこそ子どもを育てたいと考える人を増やし、育まれることもが倉敷を愛する人となるためには

倉敷に固有の教育事業と教育環境の質を高める必要があります。

日本古来より「三計」と呼ばれてきた言葉があります。「一年のはかりごとは穀物を植えるにあり。十年のはかりごとは木を植えるにあり。百年のはかりごとは人を植えるにあり」という言葉です。まちづくりには長期的な視野が必要であり、その中で最も時間がかかるのはひとを育てることです。

私共は倉敷の歴史を大切にし、近代建築を維持し続けながら、幼児教育を93年にわたり続けて参りました。創立100周年を目指し、倉敷の皆様に恩返しをしたいと考え、これからも教育環境を整え、竹中幼稚園と倉敷教会の文化財としての価値が高められることこそ、倉敷のまちづくりに貢献するという意志を持って事業を進めて参ります。

穴吹興産株式会社の開発事業に対して私共は「①人を育てる環境の南側隣接地での大型開発に伴う日照権と教育権について、②開発期間における子どもの安全を確保するための条件について、③文化財保護に関する保障について」協議したいと考えております。このたび、南側土地の開発によって、新しい景観が生まれます。そして、倉敷教会の文化財としての価値と、竹中幼稚園の教育機関としての機能に変化が生じます。私共は、教育事業に傾けてきた理念の実現のために努力を続け、開発事業者に対して出来る限り折衝して参りました。しかし、私共にできる手立ては尽きて参りました。子育てしやすい環境を守ろうとする事業は、既成基準等の壁に阻まれて苦しい状況に置かれています。しかしながら今後の倉敷における歴史の中で、倉敷市鶴形に生じる教育環境の新しい変化については私共竹中幼稚園と倉敷教会だけで責任を負えるものではありません。ぜひともこれからは、倉敷のまちづくりにおいて倉敷らしい固有の歴史と文化と教育が大事にされるように一緒に考えていただけないでしょうか。

私共の努力について皆様のご期待に添えるかどうか案じておりますが、これからも精神を尽くし、力を尽くして教育事業に邁進いたします。引き続き、私共の事業を応援して下さいよう、よろしくお願ひ申し上げます。